

二条城



東大手門
当初は二階建てであつが1626年天皇行幸に際し二階から見下ろさないよう配慮され、一重の門に建替られた。



東南隅櫓方面より東大手門・外堀を見る。



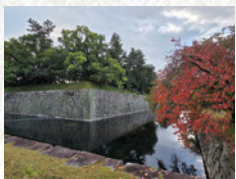
東南隅櫓
寛永3年(1626)徳川家光の時、後水尾天皇行幸の際に建設。攻撃・防御の要で火縄銃を収納、石落としもある。右手は堀川通り。



東北隅櫓跡
東南隅櫓と同様二階建て右真中東大手門。天明8年(1788)大火で焼失。



東大手門
京都所司代が前面にあつたので連絡用の門として利用か。



西北隅櫓跡
東南隅櫓と同様二階建て天明8年(1788)大火で焼失。



西門
明治以降に木橋が失われ、通行不可。



西南隅櫓



押小路通りより東南隅櫓を見る。



唐門と五層格式のある土塀。



番所内の天皇行幸時を再現した御所人形。

神泉苑



神泉苑の法成就池
平安京遷都以来歴代天皇の遊宴の地でもあり、弘法大師空海が祈雨の祈禱をして雨をふらせた善女竜王が棲まれているとされる池。神泉苑はもっと広大であつたが、二条城建設の為縮小されてしまいました。



水の神様弁財天を祀る祠。



神泉苑善女竜王を祀る祠。



二條陣屋(小川家住宅)重文
二条城・京都所司代に小候する中小大名の陣屋・京都奉行所の公事宿として利用したので、武者隠しや隠し階段がある。

千田明の歴史散歩
京の二条城を訪ねて

平安京は、794年に桓武天皇が「この国、山河襟帯して、自然に城をなす」と詔を発せられ遷都され、1200年の歳月が経ちますが、京都のど真ん中に古都に相応しくないお城が大極殿の東南の聚楽第跡の南に広大な二条城があります。

元は、嵯峨天皇の仙洞御所である冷然院弘仁亭の跡地でもあり、広大な神泉苑の地でもありましたが、徳川家康が1600年の関ヶ原の戦勝後、西国大名に二年の歳月をかけ完成させました。

京都は、扇状地であつたため湿地帯であり、かつ神泉苑の苑地であつたため、地盤沈下を考えた石垣が組まれています。また、徳川家康が豊臣秀頼を迎えたおり、豊臣家を早期に滅亡させなくては考えた地でもあり、大坂夏の陣の兵を出陣させた地でもあります。



千田明さん

2011年5月に電気工事業、電気通信工事業を業務とする「株式会社GNR」を設立。現在は退任。



本丸櫓門と東橋と内堀。



本丸御殿
京都御所北東部にあった桂宮御殿を移設した宮家の遺構です。



二の丸御殿の正門。

徳川家が天下に覇権を確定させ、秀忠・家光と三代の京の宿泊地であり、秀忠が子女である後の明正天皇の母、和子が後水尾天皇に嫁ぎ、外戚関係を築こうとして天皇の行幸に際して城を改装しました。歴代天皇で天守閣に登られたのが後にも先にも今に残る桂離宮・仙洞御所・修学院離宮を造られた後水尾天皇のみです。

この城は、京都所司代と共に御所を監視する役目を1867年、徳川慶喜が二の丸御殿で



元伏見城より移設した五層の天守閣から本丸御殿を見る。



土蔵(南)
本丸内堀の外側に南北に2箇所あり米蔵であった。

だが、落雷により焼失してしまいました。そびえていたころは、御所を監視し、市民への威圧効果は充分果たせたのではないかと思います。

大政奉還の意思表示により約260年の歴史の幕切れとなるまでなした地であります。余談ですが、御所を挟んだ知恩院に徳川家が有事の際の特殊構造をもつ寺を築いております。

明治以降は、太政官代を置いていましたが、府庁が下長者町通と下立売通にできたため、宮内省の管理となり、里内裏であった現在の御所東北にあった桂宮家の建物を本丸に移し、今日に至っています。また、天守閣は伏見城より移設してしま



二の丸御殿唐門。



天守閣跡
伏見城から移設された五重六階の天守閣がありましたが寛延3年(1750)落雷により焼失本丸御殿・本丸庭園・京都市街を見渡せます。天守閣があった頃は御所の監視も出来た様です。



西門防御の石垣
西門は屋根を出来るだけ小さくして視覚をなくし、石垣の上から防御しようとした。



二の丸御殿車寄せ。



二の丸御殿(国宝)
遠侍・式台・大広間・蘇鉄の間・黒書院・白書院6棟33室800畳余りあり、狩野派の障壁画で埋め尽くされている。



北中仕切門



清流園
京の豪商角倉家の屋敷跡の庭石・樹木を譲り受け1965年和洋折衷の作庭です。



緑の園



二の丸庭園
小堀遠州作の枯山水の庭園であったが明治以降、滝より泉水を入れ現在に至る。



大広間から黒書院をみる。